

## 2020～2022年度研究会日誌

月/日	報告内容	報告者
(2020)		
6/23	研究会 サバイバルユニットとしての日本のスポーツ研究	坂 なつこ
7/21	研究会 遊びと居場所と社会変革と シリアスレジャーと自由時間の関係について 青野桃子 (一橋大学大学院博士課程)	鈴木 直文
10/13	研究会 スポーツ文化が競技成果にあたる負の影響 : 柔道男子日本代表の事例を通じて	中村 英仁
11/20～21	研究会 3つの東京オリンピックと歴史研究の課題—1940年・1964年・2021年— グローバルに広がる民族舞踊の創出を支えたシマ社会の文脈 —沖縄の盆踊り「エイサー」の戦後の普及に着目して—	坂上 康博 岡本 純也
12/8	研究会 「スポーツクラブの戦後史」への(無謀な)試み	尾崎 正峰
12/15	研究会 100km ウォークの経験はどのように物語られるのか 武井 陽太郎 (一橋大学大学院博士課程) オリンピック報道が作り出したスポーツ・選手を伝える際のお決まりパターン ～海外選手に着目して...～ 山本 夏生 (一橋大学大学院博士課程) 貧困・孤立に抗するスポーツイベントのオーガナイズを比較する —弱い社会運動・ゆるい社会的包摂の構想— 糸数 温子 (一橋大学大学院博士課程)	
(2021)		
2/16	研究部総括・方針	研究部
7/13	研究会 2020東京オリンピックの論点整理と研究方法 —秋の集団討議のための素材提供—	坂上 康博
10/12	研究会 親企業に自律性を制限されるJクラブがビッグクラブ化するための条件とは何か? ～横浜F・マリノスの経営改善プロセスからの考察～	中村 英仁
11/19	研究会 N.エリアスにおけるサバイバルユニットの理解と活用のために 伝統的身体文化のスポーツ化とグローカリゼーション —戦後の沖縄におけるエイサーの競演に着目して—	坂 なつこ 岡本 純也

月/日	報告内容	報告者
(2021)		
12/14	研究会 三多摩の「社会体育」職員が刻んだもの ～研究構想と進められたこと～	尾崎 正峰
(2022)		
2/15	研究部総括・方針	研究部
2/17	研究会 スポーツを題材としたアニメーションの研究 武井 陽太郎（一橋大学大学院博士課程）	
3/17	第1回 一橋スポーツ科学研究会（オンライン）	
6/14	ゲスト研究会 ラファエル・ヴェルシュール著『トライアスロンの哲学 鉄人たちの考え事』を 翻訳して 加藤 洋介（一橋大学大学院社会学研究科助手）	
10/11	研究会 企業スポーツの未来展望：陸上競技部を事例にした試案	中村 英仁
11/18	研究会 スポーツと国際政治の現時点 —IOCを中心に&一橋人による議論の系譜もふまえて— レイシズムとスポーツ研究についての予備的考察 沖縄におけるエイサーの普及を推進した『青年会』という“地盤”	坂上 康博 坂 なつこ 岡本 純也
12/20	研究会 Why sport? Why not sport? スポーツはなぜ存在すべき/すべきではないのか？	鈴木 直文
(2023)		
1/24	研究会 三多摩地区の「社会体育」職員の「しごと」の軌跡	尾崎 正峰
1/24	ゲスト研究会 パウリティロシュはスポーツか——カポエイラとの比較から 寺尾 智史（一橋大学大学院社会学研究科教授）	
2/14	研究部総括・方針	研究部
3/15	第2回 一橋スポーツ科学研究会（中京大学）	